

熊本の食をPRする大使を委嘱

熊本の「食」を全国へPRするための動きも活発化している。県

は10月23日、熊本県庁本館で県産食材などのPRを目的に県内の料理人や流通業者など合計8人に「くまもと『食』の大地親善大使」の委嘱状を交付した。

交付を受けた8人は、県外でのフェアや商談会などで、各々の特技を生かしながら「くまもとの赤」ブランドをはじめ、県の農林水産業や県産食材をPR、さらには販

路を開拓していくことが主な活動となっている。

委嘱した大使は以下の通り。

- ▼土山憲幸ホテル熊本テルサ総支配人▼田代眞悟熊本県調理師会
- 長▼村田政文全日本司厨士会熊本
- 県本部会長▼宮崎親志日本中国料理協会熊本県支部長▼堤公一熊本
- 県菓子工業組合理事長▼三鶴眞一
- 熊本県洋菓子協会会員▼亀井創太郎
- 熊本県加工食品卸協議会長▼宮本
- 健真リストランテ・ミヤモト代表

全国的にも優れた熊本の産品を生かし、付加価値を付けてブランド化するために不可欠なのは「連携」だといえる。連携により、特産品を使った地域振興も県内各地で進む。また、特集を振り返ってみると、近年における食のキーワードである「6次産業化」の動きとして、生産者と消費者による情報交換や体験型学習、さらには、イベントなどを通じた独自の商品開発や販売、ブランド化を成功している例が数多く見られる。今後、もこうした県内の食を取り巻く話題を切り取り、優れたメイドイン熊本の商品を広く紹介していきたい。



▲「くまもと『食』の大地親善大使」の委嘱状を受けた県内の料理人など8人。各々の特技を生かし、くまもとブランドの販路開拓を目指していく